

作品コーナー

本紙『ふくろうの家だより』その15でもお伝えした作品コーナー。昨年3/9(金)の設置以来、ご入居者様の作品がたくさん飾られています。

この場所にはもともと掲示板がありました。レストランのテーブルの背面では見づらいのご意見をを受け、掲示板をエレベーター右

の壁面に移動。空いたスペースは、職員のアイデアでご入居者様の作品展示に使おうと決めました。文化教室で絵手紙を教えている方や、押し絵が趣味の方などに打診したところ、

展示を快諾してくださいました。この最初の作品が呼び水となって、ほかの方々から手芸や書道の作品が寄せられるようになりま



した。季節に合わせて作品を入れ替える方も多く、作品コーナーは見る人・創る人の双方に心のハリを与えています。

スタッフ リレーエッセー

言葉の大切さ

私が介護の仕事をはじめたきっかけは、看護師の母の「介護の資格を取ったら」という一言でした。いざ現場へ出てみると、コミュニケーションの難しさやオムツ交換の大変さ等、毎日ゆとりがなく、辛かったことを思い出します。



介護職員 砂川和臣

しかし、半年が過ぎた頃、患者さんの「いつもすまないね、ありがとう」の一言に、私は何ともいえない気持ちになりました。人はちょっとした言葉で、辛さや悲しさから救われることがあります。以来、私は患者さんの何気ない一言に何度も救われてきました。

介護の仕事に就いて3年。まだまだ未熟で、勉強の日々です。これからも精進し、「言葉の大切さ」を噛みしめ、ご入居者様の笑顔がたくさん見られるよう頑張ります。

今日のらんこ



鏡餅になっちゃった♪

アウルコート
のいやし課長
キャバリアの
「らんこ」です

ことばのトピラ

感染予防

いつもと違う症状だなと感じたら、看護師へ

風邪やインフルエンザ予防の基本は手洗いとうがいの励行です。せき・くしゃみはウイルスを拡散するので、マスクを着用するか、出るときにティッシュや周囲に触れにくい腕で口と鼻を覆いましょう。

●介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)

アウルコート真駒内

〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3

TEL.011-588-1122 FAX.011-588-1133

入居相談受付中 ☎0120-916-768

- 地下鉄南北線「真駒内」駅下車
- じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗り(約5分)「南町4丁目」停下車(徒歩約4分)

アウルコート真駒内 検索 <http://www.owlcourt.jp>



ふくろうの家

その17
2011年1月

だより

●発行/株式会社私の青い空

●編集/アウルコート真駒内広報室 〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3 ☎011-588-1122



『天地明察』

代表取締役 武田 治信

最近読んだ本で、2010年度本屋大賞となった沖方丁氏の『天地明察』が面白かったので少しご紹介します。本屋大賞は書店員が選んだ一番売りたい本ということで、2004年から始まりましたが、受賞作品に面白い本が続いており注目していました。

『天地明察』は時代劇で、江戸時代初期に新たな暦を作り上げることを志した渋川晴海(安井算哲)が主人公です。將軍家の碁打ちの一人という仕事をしながら、日本で独自に発達した数学「和算」に生きがいを見出し、老中・酒井忠清から命を受け、天文、数学、暦学を学びながら各地の緯度を計測し、当時用いられていた宣明暦からの改暦を申し入れること3回、それまでの暦の本質を露にし、ようやく朝廷に採用され貞享暦として後の太陰暦の基本となった暦を作り上げるまでの日々が軽快に描かれていました。

晴海はたたずまいとしては、のんびりとした様が伺

えるのですが、彼の周りには大変な才人達が多かったです。晴海に改暦事業を命じた保科正之は、二代目將軍秀忠の実子にして家綱の後見人となり、武士の道から文治の道へ進み、文化による日本統一を目指しました。副將軍・水戸光圀は晴海を気に入り、庇護者となったそうです。そして、「和算」の開祖といわれる関孝和は日本数学史上の天才で、晴海の熱烈な憧れの人でした。そんな人たちが登場し、ドラマティックにその時代を描いていました。また、妻のえんは算術好きで、晴海が関孝和に挑む勝負の見届け人になり、最後までむつまじく暮らし、最期は同年同日に逝去したとのことで、仲の良いまま生涯を終えたということでした。

ただひたすら信じた道を進み、信念を持って捉えたことを確実に具現化していく過程に、ひとつのことを成し遂げようとする人間の姿の美しさを感じさせる本でした。新年の計をこの一冊に見つけた思いです。

みんなで楽しめるよう 細かな配慮で参加型に

2007年4月の開設以来、アウルコート真駒内ではさまざまな行事を実施しています。これまでを振り返ると、ご高齢であることに配慮した結果、コンサートなど受け身で参加する行事がどうしても多くなりがちでした。「ご入居者様が主役になれる行事を!」との願いを職員が共有するなかで、運動会というア

アイデアが生まれました。千葉いづみ実行委員長は「室内で運動会ができるのか企画当初は少々不安でしたが、競技を決めたり準備を進めるうちに私たち職員も当日が楽しみになっていました」と語ります。

そして10/15(金)、アウル初の大運動会が行われました。座ったままで参加できる「ポー

元気に選手宣誓!▶



ル送り」、出場者に合わせて高さを調節する「パン食い競争」、かごを持つ人が玉を受けにあちこち移動する「玉入れ」など、ご高齢でも無理なく参加できるしくみを取り入れました。



▲最優秀選手のトロフィーはこれ!



童心に返るひととき 大好評で定番化決定

お稲荷さんと太巻きのお弁当や、はためく万国旗など、運動会ムードは満点。「バットぐるぐる鉛探しゲーム」では、目を回した職員が口のまわりを粉だらけにするコミカルな姿に爆笑。紅白に分かれた対決戦は最後のリレーまでもつれる大接戦で、場内の興奮は最高潮に。1時間半の熱戦の末、

紅組の辛勝で大運動会はお開きとなりました。

多くのご入居様から「楽しかった。来年も同じ行事を」とのリクエストが早くもあり、アウルの新たな秋の行事がひとつ増えました。



興奮! 爆笑! の 大運動会

心も体も元気になる、アウルの新しいイベント



アウルの四季彩々日記

●9/9(木)

音楽を楽しむ集い

ピアニストの加藤容子さんをお招きし、「音楽を楽しむ集い」を初めて行いました。嚙下体操、童謡イントロクイズ、大正琴と紙芝居など、もりだくさんのプログラムは、学校の時間割のようにチャイムで切り替え。ご入居者様は楽器でリズムを刻み、歌い、体を動かし、全身で音楽を満喫。好評に比べ、以降毎月実施しています。



●9/16(木)

創作活動で陶芸に挑戦

さまざまな作品づくりに取り組んできた創作活動で、待望の陶芸がスタートしました。毎月1回、手のひら大の粘土をこねて、お皿や器、お地蔵さんなど、好きなものを制作し、次の回に焼き上がった完成作品が手元に届けられます。1回で1作品ができあがる手軽さと、八代先生の上手なリードで、陶芸ファンが増加中です。



●10/22(金)

ランラン号がやってきた

街の話題を現地から生中継するSTVラジオの「ランラン号」が、アウルの取材にやってきました。放送時間は数分でしたが、施設の行事から癒し課長らんこの紹介まで内容は多彩。たまたまお聴きになっていたご入居者様からは「アナウンサーがかんでいたのに、施設長はかまなかったね」とお褒めの言葉をいただきました。



●11/10(水)

エコクラフトで籠づくり

さまざまなジャンルがそろそろ充実の創作活動で、11月はエコクラフトが登場。1回約1時間のゆったりペースで、持ち手付きの籠を作りました。せっかく覚えた編み方を忘れないよう、エコクラフトの活動は毎週実施し、1ヵ月ほどで作品が完成。「みかんを入れようかしら」と、参加されたご入居者様も満足げでした。

